

## 道路行政セミナー2012年2月号 NO.041 2012年2月17日発行 ポイント

### ◇◆特集◆◇

#### ★東日本大震災における事務処理について★ (東北地方整備局 道路部 路政課)

東日本大震災関連で、道路法をはじめとする各種道路関係法令の運用等を所掌している東北地方整備局道路部路政課が行った対応・手続きの中から、ポイントとなる事項を時系列で紹介する。

### ◇◆訴訟事例紹介◆◇

#### ★夜間に普通自動車が行進中、融雪による陥没穴に前輪が滑落し、 車両が損傷した事故について、道路の管理瑕疵が争われた事例★ <平成22年8月10日 釧路地裁判決> (国土交通省 道路局 道路交通管理課)

##### 【事案の概要】

夜間に普通自動車が行速10キロメートルで行進中、融雪が原因と推定される陥没穴に、前輪が滑落し車両が損傷した。

本件道路は、融雪水等が集積しやすい環境にあることを十分に予見できたにもかかわらず、安全かつ円滑な交通を確保するための措置を講じていなかったとして、道路管理者に対して車両の修理費用を請求。

##### 【判決要旨（請求棄却）】

本件道路は、簡易舗装道路であり、被告の除雪作業の施工基準を定める道路種別に該当しない生活道路である。また、本件陥没穴は、事故当日のうちに形成されたものと推認され、被告が長期間にわたって放置していたものではない。

さらに、本件事故直後の実況見分の際、2台の車両が本件陥没穴にかかっていない部分を通じたことや、自動車の前照灯の性能からすれば、本件陥没穴を回避して、自動車を走行させることが可能であった。

---

## ◆◆TOPICS◆◆

---

### ★相模原市における交通円滑化の取り組み★

#### ～橋本地区TDM交通社会実験について～

(相模原市 都市建設局 まちづくり計画部 都市鉄道・交通政策課)

相模原市では、自動車を使用する時間や経路の変更を促すなどのソフト施策で、道路混雑の緩和を図る交通需要マネジメント（TDM）の推進に継続的に取り組んでいます。

本稿では、平成23年10月に橋本地区で実施したTDM交通社会実験に、マイカー送迎者を対象としたモビリティ・マネジメントを組み入れた成功事例についてご紹介します。

---

## ◆◆地域における道路行政に関する取り組み事例◆◆

---

### ★草の根ITS ～地域に根差した地域ITSの取り組み～★

(高知県 土木部 道路課)

中山間地域を多く抱える高知県では、急峻な地形や脆弱な地質により、膨大な事業費や期間を要するなど、道路整備が困難な場合に、これを補完し、道路利用者の安全性確保や利便性向上を図る目的でITSを導入しています。

本稿では、地域のニーズに対応した地域に根差した取り組み「草の根ITS」についてご紹介します。

.....

### ★「大自然や歴史を肌で感じる町 室戸」の道★

(高知県 室戸市 建設課)

室戸市では、その厳しい地形から「道」が生活や産業振興をはじめ、あらゆる面における基盤となっています。そのため、この「道」を守るべく地域住民と行政が一体となり、道路の維持管理に取り組んでいます。

今回は、当市が管理する「道」を5つに分類し、「道」の役割とその維持管理についてご紹介します。

---

## ◆◆お知らせ◆◆

---

### ★平成24年度「道路ふれあい月間」推進標語を募集します★

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

国土交通省では、毎年8月を「ふれあい月間」として、道路の正しい利用や道路愛護活動の推進に努めていますが、この一環として、平成24年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集します。

## ◆◆編集後記◆◆

時代を遡ることローマ時代。

当時の皇帝クラウディウス 2 世は、愛する人を故郷に残した兵士は士気が下がるという理由から、強兵策のひとつとして兵士たちの結婚を禁止していました。しかしながら、キリスト教司祭のバレンタインは愛の尊さを説き皇帝に抵抗をしたため、迫害を受けることとなり、西暦 270 年 2 月 14 日に殉教しました。このことから、ローマカトリック教会ではこの日を『聖バレンタインデー』とし、司祭の死を悼むための祭日とされ、その後、14 世紀頃から愛の誓いの日とされるようになりました。

これがバレンタインデーの起源といわれていますが、ご存知でしたか。

現在の日本では、バレンタインデーである 2 月 14 日には、愛や感謝を込めて女性から男性へチョコレートが贈られますが、欧米では、チョコレートを贈る習慣はなく、日本とは逆に、男性から女性へ贈り物をしたり、メッセージカードの交換をするそうです。

チョコレートの原料としておなじみのカカオ豆。

高温多湿の土地でしか栽培できないとされるカカオの木には、長さ 20 cm くらいのカカオポッドといわれる赤褐色のラグビーボール状の実があります。厚さ 1 cm 以上の堅い殻で覆われたカカオポッドの中には、甘く白い果肉（パルプ）があり、この果肉に包まれるように 30~40 粒の種子が入っています。この種子がカカオ豆で、果肉ごと実からはがされ、発酵・乾燥という過程を経て輸出されます。

カカオ豆の学名は「テオブロマ・カカオ」。

テオブロマは“神様の食べ物”というギリシャ語です。その名にふさわしく、カカオ豆から作られたチョコレートは、昔は王様や貴族あるいはお金持ちだけの貴重なもので、また、飲み物であったそうです。

カカオ豆には、カルシウム、マグネシウム、鉄分、亜鉛などミネラルバランスがよく、食物繊維も豊富に含まれています。このカカオ豆を原料とするチョコレートは、高脂肪・高カロリー食品ではありますが、ポリフェノールという成分が豊富に含まれており、がんや動脈硬化、花粉症などのアレルギーといったさまざまな病気の原因といわれる活性酸素の働きをおさえる効果があるといわれています。また、チョコレートには神経を鎮静させる作用があるテオブロミンという成分も含まれており、その甘い香りは、リラックス効果をもたらし、さらに集中力や記憶力を高める効果があるといわれています。

神様の食べ物からの効用を期待しつつ、チョコレートの香りでホッと一息入れ、本年も道路行政に関わる方々に有益な情報配信ができるよう、努めていきたいと思いを。

(U)